

第9回奈良ESD連続セミナー概要報告

- ◇開催日時 平成29年1月5日(木) 17時～20時
- ◇会場 次世代教員養成センター2号館多目的ホール
- ◇参加者 河野(富雄第三)、三木・山方(都跡)、
新宮(平城)、池見(大宮) 大西(飛鳥)、
西口(平城西)、中澤哲(平群北)、
島(郡山西)、蔵前(真美ヶ丘第一)
谷垣・黒木・北村・中澤(教育大学)
計14名



◇内容：指導案の検討

①私たちの暮らしと政治：河野

6年生社会科：公民の分野

京奈和道路を題材に

和歌山県の人々の視点から考えると、南海トラフ地震発生時の支援物資の輸送経路、避難経路としての「命の道」(雲仙普賢岳との比較から)

道路は環境破壊の面もあるが、防災の側面もある

- ・住民の願いが議会で実現されるという仕組みを押さえる必要があるだろう

→要望書に基づいた動きであることも事実(国土事務所取材)

避難道路、防災道路にも指定されている

- ・奈良県民にとっての便利さも明確にすればどうか
- ・観光や利便性などいろいろ目的がある。焦点化した方がいい
- ・道路ができたことで良い面が明確にできるか
- ・富雄第三の子どもにとって、大きな道路は身近だ。
- ・税金の使われ方等をメインに扱う必要があるのではないか。
- ・道路はツールなので、道路建設の是非について練りあいができる。そのあとで税金の使われ方を集中的に扱ってはどうか。
- ・最近の道路は透水性舗装もあり、防災の側面もある。
- ・現在あるすべての道路は、いずれやり直す必要があり、それは税金が使われる。

②持続可能な地域づくりを目指して：三木

大井川鉄道 林業推進のために建設された鉄道、ダム建設のための鉄道

かつての大井川鉄道

多様性：豊富な水と森林資源

相互性：林業と鉄道、水力発電と鉄道

循環性：森林保全と林業、水資源と電力

現在

林業の衰退、過疎化、モータリゼーション 持続性が保てなくなってきた

→ 観光地化への取組

- ・トーマス・SLが走るのは大井川本線のみ
- ・井川線・寸又峡温泉までは観光客を呼び込めていない
- トーマス・SLに頼らない地域のポテンシャルを生かした取組
- ・地域の方のおもてなしの心
- ・手作り感、手を振るボランティア（地元の人たち）
- ・授業展開に時間軸を入れているところはよい
- ・大井川地域の人たちの「地域づくりの関する願い」からこれから目指したい自分の地域について考えるきっかけとなる。
- ・観光化によるESDの視点について対比させては（林業から観光へ）
- ・地域住民の思いを前面に出してはどうか



③国土の森を持続可能にしていこう：新宮

木づかい運動：南陽市

- ・日本っばいから：日本の世界遺産で感じさせてはどうか
- ・ポスターの「木を使ってくれてありがとう」の意味を考える
- ・間伐の重要性をどのように気づかせるか
- ・全国の木づかい運動を調べる
- ・輸入材を使うことは返って環境に悪い。国産材の使用に焦点化させることが必要
- ・外材の輸入についてふれるべき
- ・木材を使うことに対する是非は議論すべきではないか
- ・国産材は高いけど使うかどうかで話し合わせては
- ・「ありがとう」は誰の言葉かを考えさせるとよい・森林環境の役割が見えてくる

④地域のためにできることー地震災害を想定してー 中澤哲

- ・倉吉市の公助をもとに平群町の公助について考える
- ・平群町の共助をもとに平群北小学校区の共助について考える
- ・成徳小学校の取組をもとに自分たちができる自助について考える。
- ・事前・事中・事後の3つの場面で自助を考えるべきでは
- ・地震発生時によって対応が変わる。それへの対応はどうするか。
- ・普段から高齢者の困っていること、不安に思っていることを聞き取る活動をしておくとうい（事前）
- ・町の地形や状況に応じて考えることができる子どもを育てる



⑤伝統野菜をESD教材に：山方

5年生社会科「これからの食料生産とわたしたち」

- ・伝統野菜のよさをフォーカスする

「その土地の気候風土にあった野菜」「地域食文化」「地産地消」「旬の時期しか生産できない」

- ・ブロッコリー 国内産 198 円、アメリカ産 128 円 輸送費がかかっているのにアメリカ産が安い
- ・みずな 奈良県産 128 円、国内産 98 円 輸送費がかかっていないのに県内産が高い
- ・野菜の価格への影響 「野菜の揃いが悪い」「手間がかかる」
「生産効率が悪い」「旬の時期のみ生産可」
- ・緑提灯のお店
- ・地元産の野菜はパッケージごとに生産者の顔や名前が表示されているものが多い
- ・伝統野菜は地産地消の象徴
- ・昭和時代の食料自給率の低下は、人口増加と食生活の変化が原因。平成の食料自給率の低下は、食料供給力の低下。
- ・伝統野菜を購入することが、食生活の変化を緩和させることになる。また地域の農家を助けることになり、地域の農業を守ることになる
- ・消費行動を通して地域の農業を守ることができることに気づかせる
- ・旬のよさについて明確にすべき
- ・全 4 時間では無理だろう
- ・伝統野菜と子どもとの出あわせかたを丁寧に
- ・伝統野菜の 4 観点を明示した方がいい



連絡

- ・八名川小パワーアップ交流会 山方先生（発表者）、西口先生
- ・第 3 回実践交流会 in 川上村
新宮先生、島先生、中澤哲先生、河本先生、黒木君、北村先生、
- ・次回は 1 月 25 日（水）19 時から

